

## 特集にあたって

COVID-19により、生活様式も大きく変化した。もっとも身近な音環境では、感染予防対策である対人距離の確保やマスクの使用により、音(声)の質の低下による不自由さを感じさせられた。本特集は、『With・After コロナと音環境』と題し、コロナにまつわる音環境について、音環境分野から少し離れた話題も含めて多角的な視点で考えてみる機会とした。

【1. 総論】「新型コロナウイルス感染症対策の変遷と今後の展望について」では、新型コロナウイルスの今日までの流れや新型インフルエンザ等対策特別措置法、今後の展望について述べていただいた。

【2. With・After コロナと音環境(都市)】「COVID-19拡大に伴って増加した在宅時間の増加と騒音苦情の関係についての検討」では、コロナによる騒音苦情の状況把握のために、地方公共団体に実施したアンケート等の結果報告と苦情増加の発生要因について述べていただいた。「サウンドスケープの視点からみたコロナ禍による仙台の音環境の変化」では、コロナ禍における仙台駅と仙台中央通りの音環境をサウンドスケープの視点から述べていただいた。こちらは著者公開のウェブサイトの音を聞きながら読み進めていただきたい。

【3. With・After コロナと音環境(住宅・オフィス・学校・病院)】3.1住宅の音環境の「共同住宅におけるステイホーム中の音環境」では、新型コロナウイルス感染症によるステイホーム中を対象とした共同住宅の音環境に関するアンケート調査について解説していただくと共に、居住後の重量床衝撃音対策として研究されている畳付収納家具や防振に着目した改良畳の紹介をしていただいた。3.2オフィスの音環境の「オフィスの音環境の変化と今後」では、固定席からフリーアドレス運用のためにレイアウト変更されたオフィスと、オープンな空間にカフェやライブラリーなど多種のエリアが配置されたオフィスにおいて実施された、音環境測定とフリーアドレスに関わるアンケート調査について述べていただいた。「これからのワークプレイスに求められる環境-2つのフィールドワークを通して」では、首都圏にあるトレーラー型の個室専用シェアオフィスと、期間限定で設けられたテラスと一体利用のできるワークプレイスにおいて実施されたユーザー満足度調査や環境測定結果について報告していただいた。「音響技術(音響機器・サウンドマスキング)によ

るオフィスの快適な音環境空間づくり」では、会議室やオープンスペースでの遠隔会議において発生する音環境問題の音響機器を用いた対策例や会議室からの会話漏れや執務エリアへの作業妨害の対策例を紹介していただいた。「個室空間の音環境改善検証」では、吸音パネルとマスキングを併用した欄間オープン個室の音環境改善効果について紹介していただいた。3.3学校の音環境の「オンラインの授業や会議で音を伝えるために試行錯誤していること」では、Zoomによるオンライン授業などにおいて、快適な音質確保のために気を付けるべきことを、他の配信サービスやイヤホン等の装置に関する内容も含めて述べていただいた。3.4病院の音環境の「歯科診療室の音環境の変化」では、コロナ感染症対策である口腔外バキュームを使用した診療室の音環境と共に、歯科ドリル音の不快感に関する研究について述べていただいた。

【4. With・After コロナと音環境(感染リスク低減への仕掛け)】4.1会話と音環境の「音環境による感染症リスク評価の試み」では、対人距離と暗騒音レベルが発話レベルに及ぼす影響や、会話時間と発話時の騒音レベルの違いによる飛沫感染リスクの関係など、今後の展望も含めて述べていただいた。「マスク着用時および卓上パーティション設置時の使用者周辺の音響特性について」では、ダミーヘッド(HATS)を用いて検証したマスクと卓上パーティションの音響特性について、問題点と改善例を含めて紹介していただいた。4.2換気と音環境の「飛沫拡散防止空気清浄機とPIV法による気流解析の紹介」では、感染リスク低減のために開発された話者の飛沫を捕捉する空気清浄機について、気流分布測定による吸引効果の検証結果と共に紹介していただいた。「プレナム構造のドアへの適用に関する基礎的検討」では、換気を目的としてドアを開放している店舗などでの活用が期待できるプレナム構造のドアに関して、模型を用いて検証した遮音性能について紹介していただいた。

感染そのものへの不安に加え、生活様式の変化に伴う様々なストレスを抱えている。本特集が、新型コロナ感染症対策を考える上で、快適な音環境確保のためのヒントになれば幸いである。

(編集担当：阿部恭子(文責)、平光厚雄)